

こんしゅう はこ
今週のことば「運ぶ」

せいしよ ふくいんしよ
《聖書》マルコによる福音書 2:1-12

はこ
運ぶ

れつおろき じゅう しゅう よ げんしゃ
列王記上17章では、預言者エリヤが
おろ たいけつ ば めん
イスラエルの王アハブと対決する場面を
つた おろ すうねん あいだ
伝えています。アハブ王に「数年の間、
つゆ お あめ ふ つた
露も降りず、雨も降らない」ことを伝え
あと み かく ととき からの はこ き
た後に身を隠した時、烏の運んで来たパ
にく やしな つた
ンと肉で養われたと伝えられています。
じぶん はこ だれ
自分で「運ぶ」ことをしなくても、誰
ほか かわ はこ
か他のものが代りに運んでくれるのです。
ひと じぶん ちから い
人は自分の力だけで生きているのではな
かみ い
く、いつも神によって生かされているこ
き
とに気づくべきなのです。

ちゅうふう ひと はこ ひと
中風の人を運んだ人

きょう ふくいんしよ ちゅうふう ひと
今日の福音書でイエスが中風の人をい
ば めん えが
やす場面が描かれています。ここでイエ
ちゅうふう ひと しんこう ちゅうふう
スは、中風の人々の信仰ではなく、中風の
ひと はこ き よにん おとこ ひと しんこう み
人を運んで来た四人の男の人々の信仰を見
ちゅうふう ひと こ つみ
て、中風の人に、「子よ、あなたの罪は

ゆる い
赦される」と言われた。

よにん おとこ じんぶつ
四人の男がどのような人物であったか
くわ か ちゅうふう ともだち
は詳しく書かれていません。中風の友達
みうち もの
だったのか、身内の者だったのかわかり
ちゅうふう ひと びょうき
ません。とにかく、中風の人々は病気のた
じぶん ちか
めに自分でイエスのもとに近づくことが
ちゅうふう ひと かわ
できませんでした。その中風の人に代っ
よにん おとこ ひと ちか てだす
て、四人の男の人がイエスに近づく手助
けをしたのです。

ほんにん しんこう まわ
たとえ、本人の信仰でなくても、回り
だれ しんこう ひと つみ ゆる
の誰かの信仰があれば、その人の罪が赦
こじん しんこう たいせつ かんが
されるのです。個人の信仰の大切さを考
う い
えると、なんとなく受け入れにくいこと
きょうどうたい しんこう おや しん
です。しかし、共同体の信仰や、親の信
こう ようじ せんらい さす
仰によって幼児洗礼を授けたりすること
かんが ほんにん しんこう かんが
を考えると、本人の信仰でなくても、神
めぐ いただ
の恵みを頂くことができるのです。

たいせつ はこ こう
ここで大切なのは、「運ぶ」という行
どう じぶん ひと
動です。自分のためではなく、人のため
ろうく お こうどう たいせつ
に労苦を惜しまない行動こそが大切な
です。

ねんかんだい しゅじつ ねん たきの
年間第7主日B年（滝野）